E-news

2020年２月

一般社団法人 日本臨床エンブリオロジスト学会　会報

第25回日本臨床エンブリオロジスト学会 ワークショップ・学術大会開催報告

青野　展也

（京野アートクリニック高輪/仙台/盛岡）

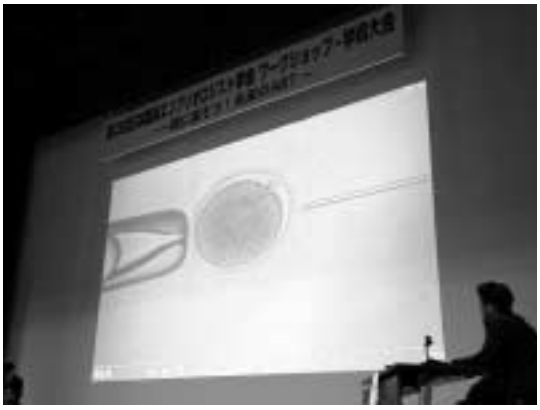
第25回日本臨床エンブリオロジスト学会 ワークショップ・学術大会を2020年１月11日(土)から12日(日)まで、国際医療福祉大学 東京赤坂キャンパスで開催させて頂きました。本学術大会のテーマは「一緒に探そう！ 未来のART」と致しました。私たちエンブリオロジストは現在行われている技術を磨くだけではなく、今後のARTが進むべく姿を想像して、それに向けて勉強し準備しなければいけないという思いでこのテーマに決めさせて頂きました。

大会１日目は、毎年好評のワークショップ実技コースと、セミナーコースを開催いたしました。実技コースでは、大規模臨床研究が開始になる影響か、PGT-Aのバイオプシーコースに多くの方が参加しました。また、TESEコースも想像を超える人数の参加者が集まりました。近年では自施施設でTESEが行えなくても専門の泌尿器科でTESEを行い、ART施設に送られてくるケースが増えているという影響もあるのかもしれません。各実技コースの参加者も真剣な表情で、そして自身の順番では少し緊張した面持ちで挑んでいました。セミナーコースではエンブリオロジストにとって悩ましい内容を少しでも解決できればと思い、例年の倍の４コース企画して、統計、学会・論文発表、ラボ運営、法律相談に関するセミナーを開催しました。各セミナーコースの参加者も真剣にメモを取り、質疑応答など活発に意見交換もできたようです。

大会２日目の学術大会では、今大会テーマに沿ったシンポジウム「未来のART」にて３名の講師の先生方に未来のARTが垣間見える内容をご講演頂きました。教育講演ではエンブリオロジストが意外に苦手な感染症について、ガン患者に対する卵巣凍結などの妊孕性について、将来のARTを支えるような基礎研究についてご講演頂きました。その他にタイムラプスについてのシンポジウム、優秀演題賞口頭発表、実際に演台上でバイオプシーとピエゾICSIを行いながら解説頂いたワークショップ ライブデモンストレーションを行いました。国内唯一のエンブリオロジストによるエンブリオロジストのための学会にふさわしい内容になったと思います。また、休憩毎にスイーツタイムを企画し、数多くのスイーツを集めましたが、あっという間に無くなりました。スイーツの力は恐ろしいです(笑)。企業様からのご協賛により、スイーツとドリンク、そしてランチを提供することが出来ましたことを感謝いたします。

今大会は400名以上の方にご参加頂きました。大会長の挨拶では丁度自身の誕生日に重なりそれを話したのですが、緊張かボケのせいで年齢を10歳もさばを読んでしまったようで、後に訂正と謝罪を行うというトラブルが起きましたが(笑)、第25回日本臨床エンブリオロジスト学会 ワークショップ・学術大会を無事開催することができました。ご参加頂きました皆様、講師の先生方、学会運営にご尽力頂いた関係者の皆様、会場をお貸し頂いた国際医療福祉大学様に深謝致します。

第25回日本臨床エンブリオロジスト学会ワークショップ・学術大会の様子

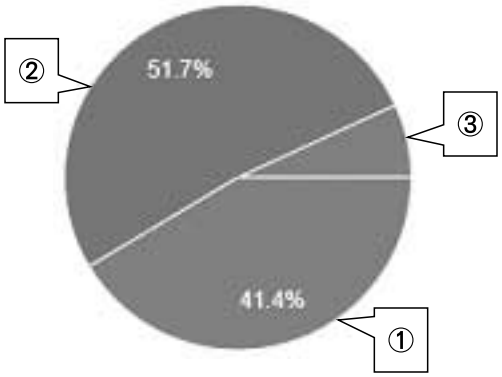


第25回日本臨床エンブリオロジスト学会ワークショップ・学術大会
～アンケート結果～

2020年１月10日、11日開催の第25回日本臨床エンブリオロジスト学会ワークショップ・学術大会には大変多くの方にご参加頂き、ありがとうございました。また、アンケートにご協力頂いた皆様、貴重なご意見をありがとうございます。学術大会に関するアンケート結果をご報告いたします。

学術大会の満足度はいかがでしたか

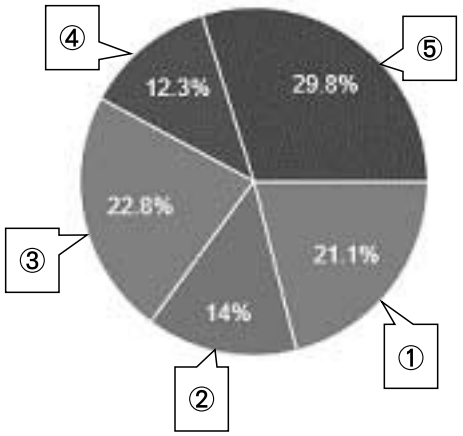
58件の回答



① 大変満足
② 満足
③ 普通
④ 不満
⑤ 大変不満

最も興味を引かれた講演を教えて下さい（シンポジウム）

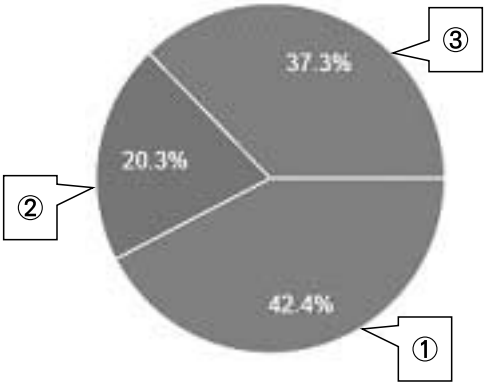
57件の回答



① どこまで進む？ラボの自動化とAI技術の応用
② 培養による配偶子の再生～将来的な有効利用とは～
③ ゲノム編集技術のヒト受精卵への応用～ARTに携わる人が考えなければならないこととは～
④ 進化するタイムラプスインキュベーター
⑤ タイムラプスデータから応用できること～タイムラプスインキュベーターの使用により見えてきたこと～

最も興味を引かれた講演を教えて下さい（教育講演）

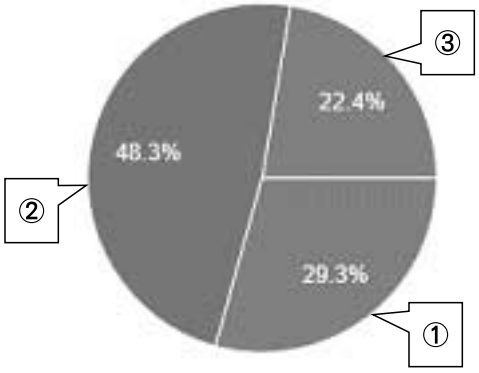
59件の回答



① エンブリオロジストが知っておくべき感染症対策up-to-date
② エンブリオロジストに必要な妊孕性温存の知識
③ 生殖医療の未来につながる基礎研究
〜受精卵は胚発育に必要な栄養を自給自足できる？〜

最も興味を引かれた講演を教えて下さい（スポンサードセミナー・ワークショップ）

58件の回答

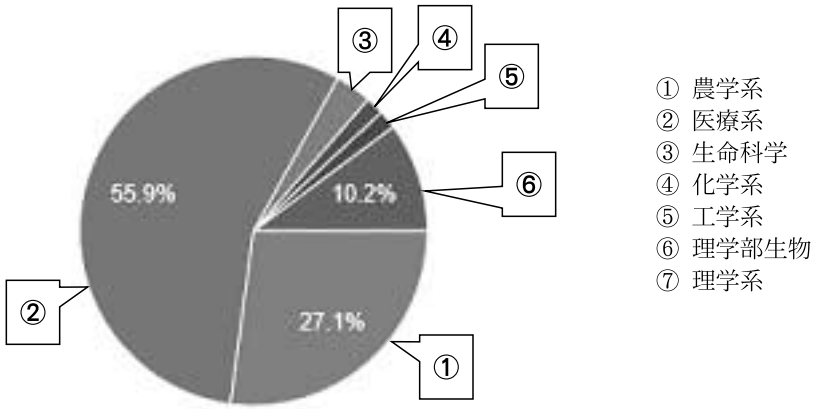


① PGT-AおよびTLIシステムを組み合わせた体外培養胚の評価方法とその展望
② Live Biopsy見て学ぶBiopsyのコツとトラブルシューティング
③ Live Piezo-ICSI見て学ぶPiezo-ICSIのコツとトラブルシューティング

多くの方にご満足いただける大会であったとの結果に、運営一同胸を撫で下ろしております。シンポジウム、教育講演、スポンサードセミナー・ワークショップにおいては、各講演にご興味を頂き、プログラムとしても満足頂けたのではないかと思います。今大会の目玉でもあるLive demonstrationには大変ご好評頂きました。皆様の技術者として課題に取り組む意欲の高さを感じるご意見を多く頂いております。

先生のバックグラウンド（専門分野）を教えて下さい

59件の回答



バックグラウンドに関する問いでは、6割弱が医療系、4割が農学・生命科学・化学工学理学系ご出身という結果でした。農学・生物学のバックグラウンドを持つエンブリオロジストが増加傾向にあります。研究の経験を持つエンブリオロジストが知識の蓄積を活性化する一方、医療従事者としての倫理観等の教育充実が必要と考えます。アンケートのご回答にも教育、指導に関する内容を取り上げて欲しいとの声も頂いております。

次回大会以降も、世界の情勢から技術、知識、教育、クオリティーコントロール、患者の声など、会員の皆様のお役に立つ情報を発信、共有する場を提供できるよう努めます。今後もご意見をお伝え頂けると幸いです。

ご協力ありがとうございました。

理事・代議員の任期満了に伴う立候補者の募集
（令和２、３年度）

会員各位

本年３月末日の任期満了に伴い、理事、代議員への立候補者を募ります。定款にもあるように、この法人は生殖医療に関する知識の普及を行い、あわせて研究活動の推進を助成し、生殖医療の発展に寄与し、世界人類の幸福に貢献することを目的としています。理事は総会の議決に従って、学術大会・ワークショップの開催、認定資格試験の実施、学術雑誌やE-newsの発行など、当学会のあらゆる活動を執行する役員であり、その役割は大変重責です。また、代議員は正会員の代表として、各ブロックの会員から運営上の意見を聞いた上で当法人社員総会に出席して審議事項を審議し、議決する責務があります。

当学会会員のほとんどは医療機関や大学、企業などに籍を置き、各組織の業務に携わっているので、その上で当学会の活動を執行することは大きな負担ではありますが、その活動は広く日本全国の不妊に悩む方々への恩恵に繋がっていますので、非常にやりがいのある仕事でもあります。高いモチベーションをもった会員の皆様の立候補をお待ちしています。

立候補される会員は立候補届に住所、氏名などの必要事項を明記し、2020年３月31日(火)までに下記事務局へ郵送、FAX、あるいは添付ファイルとしてE-mailで提出してください。

立候補申し込み、および問い合わせ先：

〒226-0003 横浜市緑区鴨居６丁目19番20号
株式会社ヒューマンリプロ・K 内
日本臨床エンブリオロジスト学会　事務局

ＴＥＬ：045-620-7560
FAX：045-620-7563
E-mail：hrepro.k@peach.ocn.ne.jp

一般社団法人　日本臨床エンブリオロジスト学会

立候補届

□　理事　・　□　代議員（いずれか一方を選択）

私は当学会の上記社員に立候補いたします。

氏名　　印

住所　〒

電話番号

E-mail

勤務先名

勤務先住所　〒

電話番号

★上記記入の上、**2020年３月31日（火）**必着で下記当会事務局へ郵送、FAX、あるいは添付ファイルとしてE-mailで提出してください。

〒226-0003 横浜市緑区鴨居６丁目19番20号
株式会社ヒューマンリプロ・K 内
日本臨床エンブリオロジスト学会　事務局
TEL：045-620-7560
FAX：045-620-7563
E-mail：hrepro.k@peach.ocn.ne.jp

日本臨床エンブリオロジスト学会
会員事前登録のご案内

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、当学会ではホームページのリニューアルに伴い、新たに会員システムを導入することとなりました。

現会員の方は、正会員必須情報をご登録くださいますようお願い致します。まだご入会いただいていない方は、この機会に是非ご登録、ご入会いただきますようご案内申し上げます。

これからも会員の皆様が快適にご利用いただけるよう、利便性向上に努めてまいりますので、ご理解ご協力を賜りますようお願い致します。

こちらのQRコードを読み込み
登録フォームよりご入力ください
https://embryology.jp/

日本臨床エンブリオロジスト学会
【事務局】株式会社ヒューマンリプロ・K
TEL 045-620-7560
MAIL embry@hreprok.com

臨床エンブリオロジスト 資格認定対象学会・研究会

日本臨床エンブリオロジスト学会・ワークショップ
日本 IVF 学会
日本産科婦人科学会
日本生殖医学会
日本卵子学会
日本受精着床学会 ・ ART 生涯研修コース
日本泌尿器科学会
日本生殖工学会
日本免疫生殖学会
日本生殖再生医学会
日本アンドロロジー学会
生殖バイオロジー東京シンポジウム
日本 A-PART
胚培養士セミナー
ESHRE (European Society of Human Reproduction and Embryology)
ASPIRE (Asia Pacific Initiative on Reproduction)
ASRM (American Society for Reproductive Medicine)
IS IVF (International Society for In Vitro Fertilization)
PSRM (Pacific Society for Reproductive Medicine)

60 点…論文発表、本学会誌の他、国内外の生殖医学関連学術誌での筆頭著者
生殖医学関連の国外または国内全国大会でのパネラー（特別講演・シンポジウム・ワークショップなどの依頼講演者）

50 点…生殖医学関連の国外または国内全国大会での一般演題発表者（ポスター発表含む）

40 点…生殖医学関連支部大会、本会が認める会での講演者、一般演題発表者

30 点…本学会主催のワークショップ参加・修了者

20 点…生殖医学関連の国内外（支部大会含む）学会参加者、生殖医学関連学術雑誌への共同著者、生殖医学関連学会での共同演者

Oct. 2019

一般社団法人 日本臨床エンブリオロジスト学会
2020年 第１回通常理事会 議事録

日　時：2020年１月10日（金）17：30～18：30

会　場：国際医療福祉大学－東京赤坂キャンパス８Ｆ会議室

出席理事：

青野展也、有地あかね、家田祥子、猪鼻達仁、岩田京子、上野　智、内山一男、緒方洋美、沖津　摂、菊地裕幸、木下勝治、佐藤景子、杉浦朝治、杉岡美智代、杉本利幸、武田信好、辻　敏徳、中條友紀子、長谷川久隆、平田　麗、宮井秀峰、西原卓志、長瀬祐樹、水田真平、渡邊英明（理事総数25名全員出席）

出席監事：

赤石一幸、澤井　毅

理事会成立の資格審査：

定員（理事：25名）に対し、全員の出席を確認した。

定款第５章第47条の理事会成立要件を満たし本理事会は成立している。

議長を沖津理事長とし、書記には久保忠彦（事務局）を指名した。

議　事

ご挨拶：沖津理事長

理事会の開催に先だって、第25回学術大会の開始については、青野大会長の叡智を結集した素晴らしいプログラムにより、また、実行委員各位のご尽力により参加者事前登録も増え、立派な会になることを確信しています。

青野大会長：今回は事前受付260名（前回：180名）と大幅増加となった、開催が東京ということもあり当日受付もかなり期待できそうである。

１．新ホームページへの移行―今後のスケジュール：西原理事

新ホームページの開示については既報の通り2019年11月１日より開示しているが今後のスケジュールにつき以下のように計画している。

・Ｍ３によるサイトの閉鎖：１月中旬を予定。－閉鎖手続きは完了。
・会員あての周知について：本学術大会において会員事前登録のご案内を実施。
・事前登録によりメールアドレスの再確認を実施し、従来のアドレスとの照合。
・正式登録の実施－本年４月中を目指す。
・マイページの設置とパスワード作成により、各種変更届がWEBで可能となる。
・クレジット機能の設置は年会費等のカード決済が可能となる。

従来に比較し会員管理面での精度も上がり利便性は高いがWEB管理費も多少高くなるが（設置料金￥30,000程度、決済金額手数料：3.1%相当、月次管理費：￥10,000→￥15,000.-）、

その導入に関して、審議の結果クレジット機能の設置についても承認を得た。

２．着床前診断における実技資格制への組み込み案について：

本学会では資格認定要件としての実技審査が有るが、昨今、着床前診断が行われるようになってきた背景から鑑み、実技資格審査要件として取り扱うことを検討すべきという考えもある。技能的には現行のガラス化凍結融解と比較した場合には多少難しいとも思われるが、どのように取り組むべきかを検討したい。意見としては①AUなど海外の例では一定の技術認定のレベルも確立しつつあるようであり　資格の一環として組み込むことは良いと思われる。②現行の資格にオプションとしての位置つけにて取り扱う。③培養士の経験年数や審査方法など検討すべき点は多い。などが有ったが、結論として現状では時期尚早とも思われるので継続検討することとした。

３．第28回学術大会長の選出：沖津理事長

現在、第26回－東京、第27回－静岡での開催が決定しているが第28回については次期総会（６月開催予定）にて承認される。大会長候補者に打診はしているが、数年来、関東地区での開催が続いたこともあり実行委員の負担も考慮して、関西圏での開催を検討したい。

４．理事・代議員の選出：沖津理事長

現在の理事・代議員の任期は本年3月をもって任期満了となる、従い、改選を行い次期総会にて正式に任命される。それまでに立候補者の募集を行い。３月半ば頃に立候補の締め切りとしたい。

５．認定資格についての会談報告：沖津理事長

従来、培養士の認定資格が本会の認定と卵子学会の認定が存在することから資格の一本化に向けて関連学会との話し合いをすべく努力を進めてきているが、今後も継続して再検討するとした。

６．各委員会報告：菊地理事

①学術委員会：学会誌への論文投稿：

次号は来年６月頃の計画であるが現状、投稿はまだ見られない。

原稿締め切りは３月一杯を考えている。学術大会での発表者にも依頼はしている。

海外では論文こそ自分の業績評価という認識であるので、同様に理事の皆様より論文に対する認識と部下育成の一環として指導していただきたい。（沖津理事長）

②資格認定委員会報告：平田理事

本年の受験者は29名である。実技認定者１名である。

認定更新要件として関連学会への参加により更新ポイントが得られることになっているが、

「生殖医学関連の国内外（支部大会含む）学会参加者」の表現であるが具体的な学会名の問い合わせがある。
したがい、対象学会名を特定した形で明記することを検討したい。
学会名特定リストに基づき検討した。主要な学会への参加の機会が少ない地方の方々を救済する目的も考慮して小規模研究会等も含めることも検討の余地ありの意見もあったが、今回提示のリストを明文化することにつき審議の結果承認された。

③サマーワークショップの開催時期について：猪鼻理事
例年 8 月中旬に開催していたが昨年は 9 月に開催した。
その結果、参加人数が半減した。半減理由がすべて開催時期の問題とは言い切れない面もあるが、業務の繁忙期となる 9 月になると特に小規模クリニックからは参加できない人も多くなるのではないかと思われる。開催の告知の機会も増やしつつ、開催を 8 月に戻して再検討したい。なお、生殖バイオロジーとの共催関係は継続して行く。
また、会員に向けて開催時期と内容についてアンケート調査の実施も行うとした。

④第27回学術大会の開催について：杉本理事
開催時期と会場について検討した結果、開催時期は令和 4 年(2022年) 1 月 7 日(金)～ 1 月 9 日(日)。会場はプラザヴェルデふじのくに千本松フォーラム（静岡県沼津市）を予定している。
会場費は￥673,000.-と安価であるが予約金としての支払い条件があるので財源をどうするか検討したが、本部会計より例年、開催準備金として￥1,000,000.-を予算化しているのでそのルールに沿って対応するとした。

以上をもって定刻に閉会とした。

議　長　沖津　摂
監　事　赤石一幸
　　澤井　毅

記、久保忠彦（2020.01.20）

以上

Journal of Clinical Embryologist

一般社団法人　日本臨床エンブリオロジスト学会雑誌

Journal of Clinical Embryologist（JCE）は、エンブリオロジストを始めとするすべての生殖医療従事者に興味を持っていただける内容を掲載し、年２回編集・発行しています。

JCEは、臨床の現場あるいは基礎研究で活躍するエンブリオロジストやその他の生殖医療従事者から投稿された論文で構成され、生殖医療において科学的かつ技術的に新たな知見を学会員のみならず社会に広く知らせることを目的としています。

論文を書いてみませんか？

臨床において、貴重な経験や些細な発見、そして蓄積されたデータをまとめて報告することは、発信をする本人や同僚あるいは所属する施設の業績としてのみならず、専門を同じくする医療者、さらには社会への還元として重要な意味を持ちます。学会発表は参加した視聴者の「記憶」に残ります。そして論文としての学術雑誌への掲載は、国内外の多くの読者に「記録」として残ります。

JCEは、日本医学中央雑誌（医学中央雑誌刊行会）、J-GLOBAL（科学技術振興機構）に登録され、また、国立国会図書館に所蔵されています。日々の臨床業務あるいは臨床研究の成果を、自身の発展のため、そして社会に共有すべき知的財産として残してみましょう。

学会員のみなさまからの多数の投稿をお待ちしています。

医学中央雑誌刊行会 （特定非営利活動法人）	医学中央雑誌 （医中誌Web）	「医学中央雑誌」とは、1903年（明治36年）の創刊以来、国内発行の医療関連分野の定期刊行物を所蔵するデータベースです。インターネット版「医中誌Web」は、全国の医学・歯学・看護学系大学のほぼ100%で導入されています。
科学技術振興機構 （独立行政法人）	J-GLOBAL	「J-GLOBAL」は、“つながる、ひろがる、ひらめく”をコンセプトに、これまで個別に存在していた良質な科学技術情報をつなぎ、産学連携や研究開発の初期段階および計画立案時におけるアイデア探しやきっかけ作りなど支援するサービスです。
	国立国会図書館	納本制度に基づいて、日本国内で出版されたすべての出版物を収集・保存する日本唯一の法定納本図書館です。

日本臨床エンブリオロジスト学会雑誌投稿規定

1．投稿資格

筆頭著者は原則として本学会会員に限る。ただし、編集委員会が必要と認めた場合には、会員以外にも特別話題に関する投稿を依頼し、あるいは共著者として認めることがある。

2．論文の内容と種類

原稿は、本会の目的に関連のある総説、原著、短報、症例報告、臨床調査、テクニカルノート、国際学会参加報告、その他で未発表のものに限る。なお、日本臨床エンブリオロジスト学会および当学会の共催、後援事業で発表した内容の論文は優先して掲載する。

3．著作権

本誌掲載論文の著作権は日本臨床エンブリオロジスト学会に帰属する。

4．原稿の構成

原稿は、表紙、論文要旨、本文、参考文献、写真・図・表及びその説明文から構成される。これは、総説、原著、論説、症例報告、臨床調査、短報全てに共通である。原稿はＡ４版の用紙にワードプロセッサーを用いて11ポイントで印字し、１頁あたり40字×30行（1,200字）とし、行数を通し番号にて挿入する。

１）表紙：表題(和文・英文)、著者名（和文・英文)、所属（英文)、住所（英文)、ランニングタイトル（和文：40字以内)、連絡先（和文：氏名、所属、住所、電話番号、FAX番号、Eメールアドレス）とする。表題には略号を用いない。

２）論文要旨：600字以内（要旨は１枚に独立させる)。

３）キーワード：日本語あるいは英語で５個以内。

４）本文構成：緒言、材料（対象）と方法、結果、考察、結論、謝辞とする。

５）引用文献：文献は引用順に番号をつけて最後に一括し、下記の記載例の形式で記す。本文中にも、「…知られている[1)]」。または、…[2,3)]、…[1－5)]」のように文献番号をつける。

６）写真・図・表：写真と図の説明文（和文）は独立させる。表はそれぞれ独立した頁とする。

5．論文の書き方

１）論文は、原則として日本語とする。ただし、外国人の投稿の場合、あるいは特に希望する場合は英文も受け付ける。

２）外国の人名、地名などは原語、数字は算用数字とする。学術用語及び諸単位は、それぞれの学会所定のものに従い、度量衡はメートル法により、所定の記号を用いる。

6．引用文献の書き方

著者名は６名までとし、それ以外は他とする。下記のように統一する。

１）【学術雑誌】

著者名: 表題. 雑誌名, 巻: 頁-頁, 発行年 (西暦).

＜例１＞内山素子、細田有紀、高橋具視: C-IVFで受精しなかった症例の翌日精液所見の検討－精子生存試験（サバイバルテスト）の有用性に

ついて－．日本臨床エンブリオロジスト学会誌，7: 37-44，2004.

＜例２＞Sugawara N, Tokunaga Y, Maeda M, Komaba R, Araki Y: A successful pregnancy outcome using frozen testicular sperm from a chimeric infertile male with a 46,XX/46, XY Karyotype: Case report. Hum Reprod, 20: 147-148, 2004.

２）【単行本】

著者名: 表題．編者名，署名，pp.頁-頁，発行所，発行年（西暦）.

＜例１＞佐藤　和文: 臨床エンブリオロジスト（胚培養士）の役割．森　崇英・久保　春海・岡村　均編,図説ARTマニュアル，pp.425-434，永井書店，2002.

＜例２＞Revelli A, Poso F, Tur-Kaspa I: New insights into gametogenesis, sperm migration, fertilization and implantation in humans, Revelli A, Tur-Kaspa I, Holte JG, Massobrio M. eds. Biotechnology of Human Reproduction, pp.19-42, Parthenon Publishing, 2003.

７．論文の長さと超過頁代金など

原則として印刷６頁（図表を含む）以内とし、超過頁並びに特に費用を要する図表及び写真（特にカラー印刷の希望者）に対しては実費を著者負担とする。希望者は投稿時に申し出ること。

８．原稿の送り方

１）制作された原稿は、投稿先のEメールアドレスに添付送信する。内容データは著者も保管しておく。投稿後２週間しても受け取り通知が届かない場合は、投稿先に問い合わせること。

２）原稿の送り先：

〒983-0864
宮城県仙台市宮城野区名掛丁206-13
仙台ARTクリニック
JCE編集委員　菊地　裕幸宛
TEL:022-791-8851 FAX:022-293-1547
E-mail: kikuchi.sendai@gmail.com

３）投稿締切日：随時受け付けている。

９．論文の採否と掲載決定論文の提出方法

投稿論文の採否、論文の種類は編集委員が決定する。審査の結果、原稿修正を求めることがある。

10．別刷の申し込み

別刷を希望する場合、初校の校正時に必要別刷部数を申し出ること。記入がない場合は別刷不要とみなし、掲載後の別刷希望に応じない。ただし20部は投稿者に無料で配布される。